

発行 2023 年 7 月 1 日

7 月 第 257 号

奈良・人と自然の会



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》



<シイタケ槽木（ほだぎ）の天地返し>



## Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



ならやまプロジェクト	1	チヌ（黒鯛）パワーに魅せられて	8
Monthly Repo ならやま	2	海外ボランティア活動体験記—6	9
里山の今（里山・果樹）	3	豆知識（家庭菜園—1）	10
佐保台小学校田植え・レポ	4	ならやま投句箱	11
月例研修会（薬草の里）・レポ	5	行事案内	12
自然教室（京大植物園）・レポ	6	幹事会報告・編集後記	13
仲間入りしました・ひとやすみ	7		

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

梅雨真っ盛り、梅の収穫も終わり、アジサイが美しく咲き乱れる。里の田圃には小学生児童たちによって植えられた苗がしっかりと根を張ろうとしてそよいでいる。長い間立ち入り禁止としていた「北壁」地域には貴重な植物が残っている。環境を引き続き守っていくために、この時期だけに限定して観察会が実施された。西池には近畿大学生の皆さんの協力によって特定育成調査区域に囲いが作られ、田貝の生育環境整備が進む。里山の保全にはいくつもの工夫が貢献している。

ふと気づくと、大雨で削られた水路がいつの間にか補修され、ベースキャンプを覆っていた竹落葉はなくなり、道路わきの柵も新しい竹で修復され、知らぬ間にきれいに皮剥ぎされた間伐材であちらこちらに憩いの場が作られている。素晴らしい仲間の集まりだと改めて思う。

夏本番を迎えてのイベントでは久しぶりに飯盒炊爨が予定されている。4年ぶりにもなる。ああでもない、こうでもないと思いだしながら何とか勘を取り戻した。子供たちの笑顔が楽しみだ。

**7月の活動特記事項** 夏時間(9:00~12:30):7月6日から当分の間

7月6日(木):協働活動(アダプトプログラム)

7月22日(土):夏だ!休みだ!里山で遊ぼうイベント(雨天予備日:7月29日)

**7月の各グループ活動予定**

グループ	活動予定
里山	夏だ!休みだ!里山で遊ぼう!イベントに向けた遊びの森の準備 里山林内整備、薪割り、間伐丸太材加工 ユート:アカマツの森でのマツの間伐・草刈り
エコファーム	水田の除草、スイカ・瓜の防獣防鳥対策、落花生・ピーマン・唐辛子の手入れ ナスの支柱補強、ジャガイモ跡地整備、サトイモの除草・灌水 肥料小屋・花野菜周辺草刈り、チップ入れ
景観	整備:ベースキャンプ周辺・彩の森草刈り、ミツバチ巣箱整備 ビオ:池・水路保全、環境整備、イベント(水生生物観察)準備 花:自転車道周辺、野草園周辺の草引き
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、笹草刈り イベント(里山観察)準備、ベースキャンプ屋根テント補修
果樹	鹿よけフェンスの設置、キウイ棚鹿対策 実りの森の除草、ブルーベリーの収穫

**活動日: 毎週木曜日 9:00~12:30(夏時間:7月から当分の間)**

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



## Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

### 5月25日(木) 晴れ 71名

午後、ならやまプロジェクト委員会を行う。

里山Gは学びの森の椎茸栽培場の間伐整備、薪棚周辺草刈り、薪割り、テント補修。エコGは水田の代掻きと草刈り、スイカの定植、ホウレンソウなどの野菜の収穫。景観Gは彩の森、梅林、薪棚周辺の草刈りなど。花班は第一駐車場横花壇草引き。ビオ班はタナゴ池周辺草刈り、ザニガニの駆除。パトロールGは観察路1コースのパトロール、緑陰広場のベンチ整備、テント補修。果樹Gはグミ、桑の実の収穫と銘板作り、実りの森南側斜面の整備など。



### 6月1日(木) 晴れ後曇り 72名

会の設立当時の会員である氏本さんが初めてならやまの活動に参加された。協働活動として里山Gの主導で、2か所での椎茸栢木の本伏せと天地返しを行う。

里山Gは椎茸栢木の本伏せ、天地返し、間伐材の皮むきと加工、テントの修理。エコGは水田の準備、ナス畑の整備と定植、レタスの収穫など。景観Gは彩の森、JR側道法面の草刈り、真竹の筍110本収穫など。花班はジャーマンアイリスの草引き、自転車道、ナニワイバラの剪定。ビオ班はBC前側溝と会所の掃除、ビオエリア水路の掃除。パトロールGは観察路2コースのパトロール、観察路、四季の丘草刈り、テントの修理など。果樹Gはグミなどの収穫、南側斜面の整備、鹿除けネットの補修。

### 6月8日(木) 曇り

75名+佐保台小21名+3名

協働活動として、今年で15回目となる佐保台小学校5年生児童の水稻栽培体験学習の始めとして田植えを行う。奈良テレビから3名が取材に来られた。また、パトロールGによる6月に限定しての「北壁」地区の観察会の1回目を実施され約15名が参加した。

里山Gは間伐材丸太加工、緑陰広場ベンチ調整、薪割りなど。エコGは田植えの主導、ビーマンなど植付け、なす畑の鹿除けネットの補修。景観Gは彩の森の草刈り、第2駐車場の溝掃除など。花班はミョウガ、アジサイ周りの草引き。ビオ班は竹林の整備、緑陰広場内水路の補修など。パトロールGは観察路3コースのパトロール、北壁観察会実施。果樹Gは梅の実の収穫と販売など。



### 6月15日(木) 曇り時々雨 47名+2名

朝から雨模様で参加者が少なかった。見学に来たノヴァクさん夫妻が即日入会された。

里山Gは間伐材丸太加工、7月イベントの飯盒炊爨用具類の確認など。エコGは来週の感謝祭の準備(じゃがいも掘り)、キャベツなどの収穫と販売。景観GはBC周辺草刈り、竹林伐採整理、彩の森ミツバチ巣箱観察整備(分蜂の兆しあり)。花班は山野草園道路沿い草引き。ビオ班は緑陰広場内水路の取水口の改修、ザニガニの駆除。パトロールGは観察路1コースのパトロール、小学生の学習支援用にタラヨウの葉の収集保管、北壁観察会(2回目)。果樹Gは梅の実の収穫、鹿除けフェンスの設置など。

里山グループ

里山林における木材腐朽菌の  
すばらしい働き



中井 弘

木材腐朽菌は立枯木、倒木、伐根、落枝などを分解することで森林生態系の循環に大きな役割を果たしています。何らかの原因で幹、枝や根に傷がついたり、部分的な枯れ死が起こると、それらの傷や枯死部から木材腐朽菌が侵入して腐朽が始まります。

歴史的建造物で分かるように、木材は何世紀も耐える「腐りにくい」材です。しかし森林内で倒れた木材は短期間で腐朽分解されます。もし腐朽分解する菌の働きが無かったら、森林は枯れた木材で埋め尽くされるでしょう。

木材腐朽菌は「キノコ」の仲間、分解された木材が白く変色する広葉樹に多い白色腐朽菌と、針葉樹に多い褐色に変色する褐色腐朽菌があります。木材の主要成分であるセルロース(繊維素)またはリグニン(木質素)を腐朽分解し、主な栄養源とする菌をいい、サルノコシカケ・カワラタケ・椎茸・ナメコ等々があります。

これらの菌はいずれも菌糸を木材組織内に蔓延させながら、各種の酵素を分泌し木材繊維を分解して栄養を取っています。

木材腐朽菌は森林を破壊しますが、一方では木材という分解しにくい有機物を分解して森林における物質循環を円滑にし、さらに森林を清掃して次代の森林生育の場を提供します。

木材腐朽菌の存在は、次世代に続く森林の永遠の生命維持に欠くことのできない自然の摂理ともいえます。(資料「植物大百科事典」森林における微生物の働きなどから)



カワラタケ



サルノコシカケ

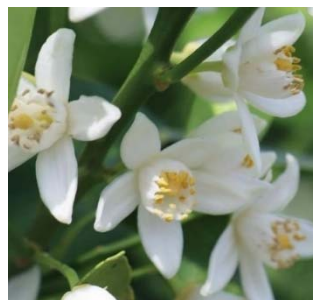
果樹グループ

大和橘の育成

寺田 孝

奈良の「橘」は「大和橘」と呼ばれ約2000年前に常世の国から持ち帰られ、「古事記」「日本書紀」「万葉集」などにも登場している。可憐な純白の花をつけ、「文化勲章」のメダルにも使われている。

植樹4、5年後に11月末ごろ黄色い小粒な実をつける。柑橘系のその味は、「上品な苦み」と「上品な酸っぱみ」と言われ、会で試験的に作ったジャムは殊の外上品な味と大好評だった。



この「大和橘」を使った商品を開発して「奈良特産品」にしたらとの奈良県農林部、大和郡山市の協力を得て、2011年に民間

有志による「なら橘プロジェクト推進協議会」が発足した。

奈良地域発展につなげようとの関係者の強い思いから、この11年余「商品開発」「植樹活動」とも確実に拡大している。

商品開発は、その香りを生かした和・洋菓子、ジャム・ゼリー、クラフトビール他、高級イタリアンレストランなどにも使われているとか。

植樹活動は、「中ッ道」街道沿いの「橘街道」、「山の辺の道」、「一般農家」などで「オーナー制」を取り、現在2000本ほど栽培されている。

「ならやま」では、プロジェクト発足当初奈良県農林部の要請を受けて、3本試験的に植樹、その後実りの森南斜面に10本ほど取り入れたが管理不十分で実なりが少なかった。

その需要の高まりから、今年から「果樹グループ」として管理手入れを強化して「なら橘プロジェクト」に提供する計画が立てられている。秋の収穫がどの程度になるか楽しみにしている。

「早苗たちよ！ 豊かな実りを！」  
—佐保台小5年生田植え体験—

鈴木 末一

今年も里山に未来っ子の元気な声がこだました。2023年6月8日、佐保台小学校5年生(24名)の水稻栽培体験学習のスタートとしての田植え、15年目を迎え、大きな節目となった。

思えば「三井物産環境基金・3カ年計画」の中に「ビオトープ・水田の復活」を盛り込んだことが出発点だった。2008年の幹事会で協議を積み重ねた結果、水田復活推進事業が了解され、詳細は「ならやま世話人会」に委託された。

「ここに水田があった」「ここは畑で年間を通して立派な旬菜が採れていた」など、半世紀以上も前のことを思い浮かべ、「水田は、環境教育の場で、自然と親しむ入り口」「里山林は子孫から借りている自然」など、入会まもない新参加者が、昔のならやま里山林の情景を発信し続けた。早速復活作業に取り組み、4月末には水田の形が整った。以来15年間で約300人の5年生の水稻栽培体験学習の場となってきた。

さて節目の田植え。例年はない早い梅雨入りで当日の天候が気がかりだったが、幸い降水確率0%、田植え日和となった。

千載会長が、「今回で15回、これまであなたたちの先輩約300人がこの貴重な体験をしています。今日植えた苗が大きく育って10月には稲刈りができるように私たちの仲間がお世話します。時には植えた稲がどんなに育っているか見に来ていただいて、いつか給食で食べることを楽しみに、大きく育つのを見守ってください」と挨拶。それを受けて男女一人ずつのクラス代表が「初めて体験する者ばかりですので、一生懸命取り組みます。よろしくお願ひします」と決意のほどを表明してくれた。

田植えの要領を実演を交えて教わった後、一歩一歩水田の中へ。「キャーッ」「ネチャネチャ

やー」「ヒャーッ」素足で感じる泥の感触が、叫び声になって里山に響いた。数分後、スタートラインに整列し、誘導指揮担当者の号令と見守り隊の指導のもと、田植えがスタート。「田植えの歌」が流れる中、5筋目ぐらいから要領良く進むようになった。例年、少なくとも一人はバランスを崩して水田の中へ転倒、下半身を泥まみれにするのに、今年は全くなく、ひと安心。



予定の時間よりも20分ほど早く、一人当たり平均110株、会員が補助した分も併せて全体で3300株ほどの植え付けが完了した。

ある児童は、「楽しかったです！植える時に泥がネチョネチョしてたから楽しかった。みんなに美味しい米を食べてもらいたいと思ひながら植えました」「いっぱいおかわりをして、お米を沢山食べたいです」と息を弾ませていた。

児童たちは手足を洗い、赤ダスキを返却してから整列。担任の先生の掛け声に合わせて、苗の成長と秋の豊かな実りへの願ひを込めて、「のびろ！のびろ！大きくなるのびろ！大きくなるのびろ！お米にな～れ！」と、元気に櫛を飛ばした。

7月には生育の状況観察、そして秋になれば稲刈り、脱穀も体験し、収穫したお米を全校児童が給食で食べる予定だ。



未来っ子  
(158㎡)

はぐくみ  
(152㎡)

## 月例研修会（薬草の里）レポ

### 宇陀松山城跡・薬草の里散策

藤原 勲

梅雨の中休みか朝から曇り空で時々薄日のさす6月13日月例研修会が行われました。

午前9時に参加者22名を乗せた生駒交通バスが近鉄奈良駅前から出発しました。バスの中で配られた資料に目を通し隣に座った方と談笑している間に1時間で大宇陀道の駅の駐車場に到着。宇陀松山は大坂と伊勢を結ぶ交通の要衝でもあり、古くから城下町として栄え江戸時代には商家町へと発展していった場所です。その古い町並みが今でも生活の場としながらも景観を保ったまま残っている地として評価され、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。

道の駅から舗装道路を歩いて行くとなだらかな坂になり、山道になる頃から急な上り坂になり30分程で着いたところが宇陀松山城（秋山城）の城跡です。宇陀松山城は松山地区の東にある古城山（標高473m）に有力国人秋山氏の本城（秋山城）として築かれ、少なくとも南北朝期には本拠を構えていたと推定されています。

豊臣秀長の大和郡山入部に伴い秋山氏は伊賀に追放され、豊臣家配下の諸将の居城となり、城と城下はこれらの大名によって大改修され名を「松山」と改めたと考えられます。奈良県内ではこの城のほか大和郡山城と高取城の三城体制で豊臣政権が大和国を支配していた事が分かり、宇陀松山城の持つ重要性が再認識され平成18



宇陀松山城の城跡で

年に国の史跡として指定を受け現在、調査・研究と保存整備事業が進められています。

次に向かったのは森野旧薬園で、現存する日本最古の私設薬草園で1729年に初代森野藤助通貞により創始され、徳川八代将軍吉宗が推進した薬種国産化政策の一端を担いました。通貞以降子孫代々藤助を名乗り、初代の志を継いで家業の葛粉製造と薬園の維持・拡充に努めてきました。明治以降の近代化によって伝統的な和漢薬が衰退し薬園が途絶する流れに抗し、旧薬園は森野家の努力により維持された稀有な存在であり1926年（大正15）国の史跡指定を受けています。また、植物分類学の父として知られる牧野富太郎氏と森野家との交流について自筆墨跡や遺された森野家芳名録、採集行動録からその足跡が見えます。資料館を出て小高い丘はならやまの観察路に似たよく整備された細い道で両側には薬草が次々と植えられています。案内の原野悦良氏の大きな声での説明に聞き入り、質問をしたり手を触れんばかりに薬草に見入っている人もおられます。山道の開けたところで全体の記念写真を撮り、昼食の予約時間が近づいてきたので薬園を後にしました。



森野旧薬園で観察

午後からは歴史的な建造物が残る町並みを散策した後、今日最後の訪問地の

万葉公園（かぎろひの丘）へ向かいました。宇陀は古来不老不死の妙薬と信じられていた水銀の産出地として知られており、この地で採れる薬草や獣を食べる事で聖なる力を持つと考えられた事から王権の獵場となっており、それが現代に続く「薬の町宇陀」の源流となっています。万葉集にみえる「東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶきぬ」は柿本人麻呂が持統天皇の孫軽皇子がここ阿騎野の地に遊獵の際随行していた時に詠んだものです。

本日の行程はこれにて終了。お疲れ様でした。

**自然教室（京大植物園）・レポ**

**京大理学部植物園・北白川試験場  
見学と周辺社寺樹木の散策**

小島 武雄

6月19日(月)自然教室が臨時開催されました。晴天に恵まれ、叡山電車「出町柳駅」に朝9時30分に25名が集合。

京都大学理学部植物園まで歩いて約15分。大学入口沿道に並ぶヒマラヤ杉の大木を眺めて、門をくぐるとすぐそばの植物園の入り口扉は既



に開かれていました。利用許可書をポストに入れて、さあ入場です。  
1923年に開設され今年で100年、面積は1.65haあります、門柱の表示板は歴史を物語っていました。現状は、植物園と言うよりは、まるで都会のジャングルでした。事前の調べでは、私たちにあまり馴染みの無い樹木が、入り口に周辺に植えられています。ウルシ科のチャンチンモドキ、ポポーなど、ホソバイヌビワは、ちょうど剪定してあり、オレンジの実が確認されました。竹類の見本園では珍しい種類を横目に、歩いていきます。鬱蒼(うっそう)たる100年を経た樹木はとても太く、高く聳(そび)え立ち、上の方はよく判りません。花期を迎えているユクノキは何処か解らず、やっと見つけたサイカチは、トゲが見つかりません。カゴノキ、

ユサン、ナタオレノキ、シロマツの青い木肌、すべてが大木で圧倒されます。ゴモジュ、シナノキは見つからず。疏水の水を引いた池の側、メタセコイアの大木の周りにはオレンジ色の大きなマメや、得体の知れない大きなサヤ豆のような物がたくさん落ちていました。蚊の襲撃もあり、観察については、残念ながら消化不良の約50分の滞在でした。



次は北白川試験場へ移動します。途中サラブレッドを連れた馬術部の学生とすれ違い、湯川秀樹博士の彫像に挨拶。試験場は面積1.3ha旧演習林の保存建物から入って行きます。こちら

も入場証に記入して入ります。まず事前に鍵を開けて貰った「材鑑室」に入ります。全国の京大演習林から集めた針葉樹20、広葉樹86、の幹や樹皮が建物の中一杯に整然と隙間なく立ち並べられています。結構太く、その迫力に圧倒されます。充満した樹木の香りも心地よい。

試験場内では、担当の方に北山杉の台木の説明も伺いました。ここの滞在は約30分。欧米北米原産70種、アジア原産100種、日本の樹木は北から南へ250種とても見切れません、またの機会に。  
次は吉田山へ登ります、昼食後は大元宮、宗忠神社のオガタマの木を見て、真如堂の青紅葉、ボダイジュの実、シャラの花を見て金戒光明寺へ、みんな気温に身体がついていけず、少々お疲れ。ここで途中解散6名。さらに白川を越えて歩いて、南禅寺境内で一息つき、疏水閣に上がり蹴上まで涼しい疏水の流れ添いに歩きインクラインへ。午後2時30分地下鉄「蹴上駅」で解散しました。皆さまお疲れさまでした。ちなみに、私の万歩計は2万17歩でした。

(案内人)

## 仲間入りしました

上田 忍

令和5年5月11日「奈良・人と自然の会」皆さまに本当に優しく迎えていただきました。梅の実（飽きない食材）は食卓を豊かにしてくれます。

梅は、アルコールは度数が高いとエキスの吸収が高まります。ゆっくり寝かせると（3年物）琥珀色で透明高い梅酒になります。クエン酸100%「塩抜きしない梅干し」本当においしく、朝食に欠かせず「梅はその日の難逃れ」です。幼児も老いもお粥さんに梅干しを添えて体調回復です。梅肉料理は健康の原点に思えます。完熟梅は「梅の微笑み」です。黄色く熟して落ちて甘みがあって皮が薄く柔らかい梅の実です。「梅の微笑み」が今日一日の元気健康を守ってくれます。私は「紛れのない梅仕事」ができれば最高の喜びであります。

山間の松林の松の新芽は実に美しかった。私の梅干しにとっては松の新芽が香りとカビ対策（松脂テレピン油）です。果樹園の手入れも行き届き素晴らしかった。果樹園を案内していただき、銘柄は不明、梅の実が大粒で梅肉柔らかく梅干しはこの梅の実が良いと教えていただきました。

私は南高梅の若木（16年）の完熟3Lと考えていましたが、銘柄不明大粒の梅の実に変更して12kg 頂き選別した10kgを秋のお彼岸にオリジナルでおいしい梅干しに仕上げたい。しかしこの梅の実が盗み取られた、見事に全量だそうです。これ程の梅林であれば大切に収穫すればキロ単位でなくトン単位の収穫に思う。福井梅は1kg700円でした。1トンに換算すれば70万円です。5トンか10トンに換算すれば被害甚大であります。これは酷い、腹立たしく惜しまれます。

私の「奈良・人と自然の会」入会が許されてビジョンは梅の実、梅仕事がメインです。一味違うおいしい梅干しと、ブランデー37度の梅酒

であります。

「一芸に秀でる梅干し」大分大山町農協の梅干しコンクール（4年に1度）出品は45年間の評価の機会でもあります。今、私は83歳。これから5年間梅仕事の延長が新たな目標になりました。「梅道楽」から「梅馬鹿」で、88歳まで無理かもしれませんが、これ程の近場に、これ程の素晴らしい梅林に巡り合いました。この喜びは納得のいく梅仕事の到来です。

梅の実は古くから豊かな香味とその健康効果（アルカリ性食材）が知られ、梅パワーで健やかな暮らしを！毎朝頂く梅干し、夕食前に一粒。

## ひとやすみ

中島みゆきの「糸」という歌を、皆さんはご存じだろうか？ 最近ある人の文章を読んだ。「人の人生は不可逆の横糸、そこへ縦糸が加わる。縦は喜び・悲しみ、怒り・笑い、の出来事が入りその空間を作っていく中で人は生きていく」それを読んでこの歌が急に思い出された。♪なぜめぐり逢うのかを私たちはなにも知らない、いつめぐり逢うのかを私たちはいつも知らない

どこにいたの 生きてきたの  
遠い空の下 ふたつの物語  
縦の糸はあなた 横の糸は私  
織りなす布は いつか誰かを  
暖めうるかもしれない♪

これは恋の出会いだが、私たちも沢山の人たちとすれ違い会っている。現に「ならやま」の出会い、大きな繋がりを作っている。

綻びれば、新しい糸を入れていく。色々な生き方をしてきた人たちが会って活動している。

ここで会って、喜びを得、また悲しい別れがあるかもしれないけれど、作った布にはその思いを持った人の心が織り込まれている。

時代や環境が変わっても、目には見えないけれど「ならやまの布」は新しい「糸」に繋がっていくと私は信じている。



## チヌ(黒鯛)パワーに魅せられて

田代 一行

私は長崎県の北部に位置する、大村湾近郊の半農半漁の田舎に生まれ、子供の頃から、水泳と釣りはよく行きました。中学2年の時、長崎市内へ転居。周辺は海釣りには事欠かないほど釣り場が多くあり、父ともよく行きました。就職後は大阪府堺市へ単身赴任。大阪湾一帯の和歌山～兵庫までの港や地磯にもよく行きました。釣れる魚種はガシラ、太刀魚、ハゼ、チャリコ、キス、アジ、黒鯛(通称チヌ)などです。

35歳の頃、仕事で訪問先の社長から「田代君、筏(いかだ)のチヌ釣りに連れて行ってやる」と言われ、初めて「筏のチヌ釣り」に南紀の秘島といわれた、賀田の筏に一緒に行きました。

これが初めての筏のチヌ釣りです。チヌ釣りは道具が多く、その頃は、皆、馴染みの渡船店を持っており、撒き餌のダンゴ、アケミ貝のエサ、弁当など予約して行き、釣り客は皆、名人級ばかりで足元にも及びませんでした。



その後もチヌの強い引きに味をしめ、何回か通ううちに大物を釣ることもでき、チヌ釣りにはまり、車の普及や週休2日制の導入などもあり、昭和50年頃からは近畿や山陰一帯の入り江には筏の設置が増え、妻や会社の同僚と紀伊半島一帯から丹後半島、小浜、小豆島、淡路島、家島諸島、四国方面へと釣行しました。

毎年、帰省の折は福岡系島、地元長崎、大分白杵、五島福江まで足を延ばし釣行。5年前には大阪シニア自然大学の卒業生仲間とオーストラリア旅行の折、チヌ釣りも楽しんできました。驚いたことに、食材調達にオーストラリアのスーパーに行くと、なんと、日本と同じアジ、サバや鯛、チヌなどが並んでいるのにはびっくりしました。

平成20年に釣りインストラクターの資格を

とり、自分流のチヌ竿制作にも取り組んできました。現在は奈良のシニア自然大学卒業時の、同窓生を募り、クラブを立ち上げ、定期的に釣行しています。当初は全員初めてのチヌ釣りでしたが、現在ほとんどの会員が年無し(50cm以上)チヌを釣れるまでになってきました。クラブ発足5年目には北部九州と大分の観光を



兼ね、九州チヌ釣り遠征旅行を実施。今年は10周年記念行事として、第2回目の九州チヌ釣り遠征旅行を計画。この記念誌に10年間の釣行記録を製本し、若き日の?チヌ釣りの思い出を子や孫に伝えようと会員間で話し合っ準備しているところです。

チヌは人間の生活圏に一番近い所に生息しており、貪欲でエサも実に多種多用、オキアミ、海老類、淡水のエビ、コーン、蚕のさなぎ、牡蠣、アケミ貝、イソメ、ボケ(ザリガニ仲間)など、何でも食します。頭も利口で警戒心が強く、産卵期には潮の緩やかな、雑魚がいない場所で釣れるなど、盛期とは真逆の場所で生息し、自ら安全な場所を選ぶなど、頭脳明晰、人間顔負けです。

チヌ釣りは1度はやったことがあるとよく聞きますが、釣ったことが無い人が多いようです。波静かな湾内の素晴らしい景色の中で、チヌの習性を理解して釣ると、意外と簡単に釣れるものです。筏には屋根・トイレ完備はもちろんですが、小部屋などの設置もあり、椅子に座って釣るので、1日中いても疲れません。女性も利用しやすい筏も多くあるので一度チャレンジしてはいかがでしょうか。



チヌのかり釣り仕掛け

**海外ボランティア活動体験記—6  
パラグアイ (1997-2002)**

木村 裕

パラグアイではスペインで行われているシエスターという習慣があります。商店や多くの事務所は12時になると一斉に店じまいをして3時までお昼寝の時間となります。見事にそろっています。また土日祝日はお休みで、日曜日の市の中心部はがらんとしており、日本のオフィス街と同じように人っ子一人いません。土曜日は午前中のみ開いている店もありますが。それに反して大型のスーパーマーケットや近代的なショッピングセンターは年中無休です。しかしはいつているテナントの中にはかたくなにシエスターを守っている店もあります。赴任期間中、大型のスーパーマーケットがつつぎとオープンしていましたが、個人商店は今後どうなることでしょうか？



スーパーマーケットは金持ちご用達のようでお客はばかにかい買い物車(日本の3倍はあります)に山のように品物を積みこんでいます。生鮮をはじめ各種食料品は、隣国のアルゼンチンやブラジルからの輸入品で占められています。一般市民向けの昔からの市場で売買されているパラグアイ産の農作物では、品質・流通管理が行き届いていなくて、とてもスーパーマーケットでは扱ってもらえないでしょう。

私たち外人も日常の買い物はスーパーマーケットを利用していました。スペイン語が話せなくても、値札を見て買い物かごにポイポイ放

り込むだけでよかったので助かります。牛肉、チーズ、野菜(品質に目をつぶれば)は安く、またワインやビールは種類が多く、かつ安価でしたので呑み助にとっては天国です。

スーパーマーケットの生鮮野菜の中でトマトは代表選手で、丈夫な果皮のものが台の上に山のように積み上げられています。生食用よりも加工用がメインで、ミニトマトは見つかりませんでした。

ピーマン類は大型のパプリカが主体で、赤色、黄色、緑色などがあり、その形や大きさはパプリカの意思を尊重しているせいか、てんでばらばら。しかし価格面では商売人の意見を取り入れたせいか、赤色と黄色タイプは緑色タイプの4~5倍と高い。

丈夫な葉を大きく広げたリーフレタスは、サラダとして最も多く利用されている葉物野菜でしたが味は今ひとつ。なじみのある玉レタスは一部のスーパーにしかありませんでした。フダンソウも葉物野菜のメインでしたが、堅くて煮ても柔らかくならないとワイフはぼやいていました。

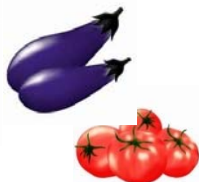
カリフラワーとブロッコリーは、「どうだ!これでもか!」と言うくらい馬鹿でかく、かつ日本人の目では表面の褐色の汚れが気になりました。

ジャガイモは皮がみずみずしくて掘りたてのようなものがある一方、芽が出かかっているものや萎びたものも同列に並んでいました。

ナスは大型の米ナス、キュウリは太くて大きく種が詰まったものがありましたが、パラグアイ人はあまり食べないので、すぐに市場にあふれかえると日系農家はぼやいていました。ダイコンは韓国系の店でのみ扱っていましたが

カボチャは大きな黒緑色のタイプで、切売りされていました。ワイフが2回挑戦したものの美味しく煮ることができずあきらめました。スープ用のひょうたん型があったことから、スープにするのかも。

豆知識



我が家の家庭菜園ーI

木村 裕

我が家の庭では花づくりが主体でしたが、5～6年前から奥方からの要望で、プランターでのトマトやキュウリの栽培を始めました。標準タイプのプランターに2～3本植え、少しばかりの収穫で満足？ していました。

支柱を立て、茎やつるの誘引が面倒なこと、もう少したくさん採りたいと、欲と二人連れで庭での地植え栽培を始めました。

日除けに栽培していたヒョウタン、アサガオ、ニガウリの場所に割り込んでトマト栽培を始めました。基本的にはミニトマトと大玉トマト苗を各2本です。教科書通り、第1花までの分枝はすべてカット、ミニトマトは、第1花開花以降は放任栽培で分枝は相手任せ。四方八方につるを伸ばして実はザクザクと豊作。大玉トマトは1本仕立てでそれなりに収穫。



病害虫はほとんど発生せず、手のかからない野菜ですが、唯一ハダニに関しては油断できません。ところどころで葉に黄褐色の小斑点が現れ、しだいに大きくなって癒合して斑紋となり、やがてその部分が枯れ始める症状が発生。当初は病気かなと思っていたのですが、よくよく調べてみるとハダニがへばりついているのを発見。量的にはほんのわずかではあるが、被害は大きいので、葉に小さな黄色の斑点～斑紋を見つけ

ると、その部分への殺ダニ剤のスポット散布は必須。ベテラン方の家庭菜園でもよく発生し、トマトの寿命を縮めているようです。



ナスはまだ2年の経験ですが、1株のみの栽培で食べきれないくらい収穫ができています。夏の切り戻しもせず、秋まで連続して収穫。

初期に飛来するテントウムシダマシは葉の階段状の被害に注目し、見つけ次第捕獲する程度で問題なし。アブラムシに関してはアリの動向に注目し、アブラムシのコロニーを見つけたらアブラムシ専用剤のスポット散布で簡単に処理。1回の散布でその後の発生はなしでした。

一番問題となるのはチャノホコリダニでした。①新芽が堅くなって伸びてこない、②新葉が裂けたようになる、③すでに開いている葉の裏が褐色を帯びて少し光る、④果実のへたの部分が褐色になるなどの症状に注目です。とくに①②はナスの生育が止まるので要注意です。発生に気付くたびに殺ダニ剤のスポット散布がベターです。散布して1週間もすれば新しい新芽が動き出します。春から秋まで切り戻しなしで収穫ができています。



# 新ならやま投句箱

俳句

早苗たち大きくなりあれ子らの檄

鈴木 末一

青田風笛の治療済み帰路涼し

羽尻 嵩

艶やかな実梅鈴なり菴の中

阿部 和生

落ち梅のことさら香る未練かな

吉川 祐司

紫陽花に亡父ちちの使いのかたむり

高間 祥子

雨だれに合わせ奏でる四筋糸

千載 輝重

紫陽花や植えしやさしき女ひと想ふ

桜木 晴代

雨戸開け目覚め鮮やか露紫陽花

小島 武雄

紫陽花に埋もれし君の笑み逝きてなお

八木 健彦

はつぐみや流さ勝ちたり口満たす

八木 順一

十五年田植に来るは五年生

藤原 勲

万葉歌句碑を吟じて梅花の香

中井 弘

梅雨空にセリバオウレン雑草のごと

青木 幸子

桑にグミ競って食べた幼き日

豊田 浩代



新ならやま投句箱への投句ありがとうございます。今後共よろしくお願い致します。

短歌

クワガタやクビキリギスの出現は

庭の草取り怠けたご褒美 戸田 博子

四季の雨濡れにぞ濡れし紫陽花の

零れる花にいと恨めしや 谷川 雅邦

川柳

マスク美人お見合い写真も付けたまま トラ吉

痛いぞ何を聞いても年のせい ペコちゃん

不祥事にあつてはならぬと言うばかり フランカー

マスク取り口は目以上にものを言い もの静か

口も手も染めて桑の実談議かな 柳司

足揃え見つめる猫はご飯待ち たけちゃん

腹空きて食事代わりの薬かな 順ちゃん

猿沢池顔を出すのはミドリガメ のぶ

人の世の心を写す投句箱 ぜんさん

これ何処へそれはアソコであの人に 通じてる

# 行事案内



## 公開イベント

### 夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！

奈良県下の小学生児童とその家族に、里山の素晴らしさと自然環境保全の大切さを知ってもらうため、「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう」を、奈良県主催の「奈良県山の日・川の日」協賛イベントとして、下記内容にて実施いたします。

1. 日 時：7月22日(土)

10:00～15:00(受付開始 9:30)

前日19時前のNHK天気予報で奈良県北部の降水確率が50%以上の場合、7月29日(土)に延期。

2. 場 所：ならやまベースキャンプ

3. 内 容：

10:00～10:30 オリエンテーション

10:30～13:00 飯盒炊爨、カレーを調理

13:00～14:45 昆虫・水生生物観察・里山遊び

14:45～15:00 振り返り

4. 参加費用：小学生・保護者各一人700円

5. 募集人員：小学生・保護者合わせて50名

6. 申込方法：7月8日よりメールにて受付

7. その他詳細は7月7日以降の当会HPを

ご参照下さい。

奈良県下から多くの参加者が見込まれます。また飯盒炊爨、カレー作りは4年ぶりの実施となります。会員の皆さまにはスタッフとして多数ご参加いただきたく、よろしく願いいたします。



担当 山本、富江、有元

## 8月・月例研修会のお知らせ

### 伊吹山高山植物観察・醒ヶ井散策

富井 忠雄

伊吹山山頂(標高1377m)の高山植物の観察と醒ヶ井宿場散策のバスツアーです。

8月、伊吹山山頂付近はお花畑の最盛期を迎えます。シモツケソウ、クガイソウ、イブキフウロ、イブキジャコウソウ、キリンソウ、ルリトラノオ、コオニユリ、メタカラコウ、サラシナショウマなどの花々が見られます。夏の暑い時期ですが、伊吹山は、7～10度気温差があるようですので涼みに行きましょう！

また帰りに梅花藻が見られる醒ヶ井の宿場町を散策します。(歩行距離約5km)



行 先：伊吹山・醒ヶ井

日 時：8月1日(火) 雨天実施

集 合：奈良商工会議所前 午前8時00分

持 物：弁当、飲物、雨具、観察道具、軽登山

靴、ストックなど。 ※ティッシュペーパー

行 程：奈良駅前→京奈和道→京滋バイパス→名神高速道路→菩提寺PA→関ヶ原IC→伊吹山ドライブウエー→山頂付近(昼食)→醒ヶ井→米原IC→名神高速道→京奈和道→奈良駅前着17時頃予定

\* 雨天の場合 コース変更あり

会 費：6000円(バス代、高速、駐車場代、飲物代など)昼食は各自持参か当地で手配

参加定員：28名(中型デラックスバス)

申込先：富井忠雄

世話人：小島、富江、青木(幸)

**2023年6月度 幹事会報告**

開催日：5月30日

I. はじめに

・総会は無事終了。今後とも、各Gの活動紹介を中心にプロジェクトを使うなどわかりやすい情報共有に工夫していきたい。

II. 会計・総務部より

・会員動向：入会1名 退会3名 会員数147名  
 ・会計：会費納入状況 収支報告あり

III. 活動・行事関係

・7/22 山の日川の日イベント  
 飯盒炊爨とカレー提供、カブトムシお土産  
 参加費は700円/1人とする

\*ならやまプロジェクト関係

・8/10 ならやま活動 夏休み  
 ・6/1 協働活動日。椎茸榎木本伏せ、天地返し、アダプトを行う  
 ・6/8 佐保台小学校田植え(参加児童24名)  
 6/1 学校にて事前学習(水稻栽培の話)  
 協働活動として協力しあうようにする

・6/22 感謝祭  
 ・6/8~29の活動日にきたかべ観察会を4回実施(この間以外は立ち入り禁止区域)  
 ・7/22 山の日川の日イベントは飯盒炊爨を予定しており、久しぶりでもあるので6/22に用具チェック、飯盒炊爨を試行する。  
 ・9/23 ジュニア自然大学校イベント60~70名参加予定 農作物収穫体験・里山体験など  
 ・テント内の不要物を点検し処分するように

IV. 企画、助成金事業案件

・2024年度の助成事業への応募に向けて検討

V. 広報関係

・ネイチャーなら7月号編成内容について説明

VI. 報告・連絡事項、その他

・月例研修会：6/13 薬草の里・宇陀松山城  
 ・自然教室：6/19 京大理学部植物園  
 ・育英グローバル小学校校庭学習 7/3

以上



最近「われら古細菌の末裔」という本を読んだ。昔、生物は大きく分けると我々のようにミトコンドリアを細胞内に持った

真核生物と細菌の2種類に分かれるとされていたが、それに古細胞が加わり今は3ドメインに分けられると考えられるようになってきた。

古細胞は40億年程前に熱水噴出孔付近での好熱好酸性菌として現れた。30億年程前に「始生代の遺伝子大爆発」が起こり、細菌や古細菌が急激に分岐進化した。21億年程前に古細菌がαプロオバクテリア取り込んでミトコンドリアを形成し真核生物が誕生したと考えられている。我々は細菌より古細菌の方が近い生き物であることが分かり本のタイトルとなった。

もう一つ驚かされたのは、真核生物は植物界・動物界とキノコ等の菌界の3種類に分かれて、菌は植物より動物に近い生き物とされているようである。

\*\*\*\*\*

**8月ならやま活動&行事予告**

\*ならやま活動 8/3 協働活動日  
 8/10 活動夏休み  
 \*月例研修会 8/1(火) 雨天実施  
 伊吹山・米原・醒ヶ井(デラックスバス)

会員動向(敬称略)  
 <入会者> 6/15 ノヴァク ヤロスワフ  
 6/15 ノヴァク 由美子  
 <退会者> 5/30 江角 幸代  
 6/6 西出 勉

発行：奈良・人と自然の会  
 URL：http://www.naranature.com  
 編集代表 Mail: editor@naranature.com  
 編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：榎木の上下をひっくり返すことにより、シイタケ菌の成長を促します。